

前回の有識者懇談会での主な意見

【計画全般】

- ・ これまでは、経営改善が軸足であったが、ストックの活用や機能の更新を含めた「新たなステージへ」と上がっていくということを宣言する計画づくりに基本的に賛同である。
- ・ 「安全を最大の使命としつつ」とあるが、安全は当然の条件であるので、使命という違和感があるし、「新たなステージ」ということが伝わらず、今までのステージのままと受け取られるのではないか。
- ・ 「新たなステージ」を目指すのであれば、新しいサービスを打ち出すとともに、それらの事業を積極的にPRするなど、明るく前向きな姿勢を示す必要がある。

【安全・安心】

- ・ 安全へのリスクが高まっていることから、関係機関との連携や、事例等をふまえた職員教育を強化する必要がある。
- ・ 施設の長寿命化において、東京や民間鉄道事業者などの先行事例を参考にしているかどうか。

【快適・便利】

- ・ 駅の構内が明るくきれいになると、犯罪が減り、安全・安心にもつながっていくと思うので、利用者のご意見を整理した上で、明るく清潔感のある駅構内を目指してもらいたい。
- ・ 採算が取れないバス路線であっても、移動手段を確保する観点から、現在のサービス水準の維持が必要という課題意識については同感である。
- ・ 東山線の混雑緩和に向けて、リニアや新幹線から地下鉄に乗り換える際、もっと桜通線に誘導したり、バス路線の高速道路活用や連節バスの導入など、新しいバスの活用方法を検討してはどうか。

【利用促進・情報発信】

- ・ 駅ちかウォーキングなどの利用促進策を継続していくとともに、他部局などとの連携した取組みを検討してはどうか。
- ・ 自動車の運転免許を返納した高齢者や、敬老パスをこれから使いたいと思っている高齢者を対象に、バスの乗り方教室の開催などを検討してはどうか。
- ・ 名古屋市の交通計画と次期経営計画をどういう風に連動させていこうとしているのか。また、今後、いろんな交通機関を使ってシームレスに移動ができるよう、マース（モビリティ・アズ・ア・サービス）の発想を取り入れる必要があるのではないか。

【人材の確保・育成】

- ・ バスや地下鉄の運転士などの現業の仕事が、はたから見てもかっこよく、なりたいたいと思ってもらえるような取組みを行う必要がある。また、職員が楽しく働ける職場の雰囲気づくりが不可欠である。
- ・ バス運転士の人材確保が難しくなっている中で、自動運転技術の進化により、運転士のスキルなどが必ずしも今と同じレベルでなくてもいいなど、採用の選択肢が広がる可能性があることから、新技術の情報収集をする必要があるのではないか。
- ・ 最近、地下鉄駅での職員のあいさつが少なくなったと感じているが、以前のように、気持ちのいいあいさつを継続してもらいたい。